

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

体育・スポーツの拠点校として地域の将来を担う人材やトップアスリートを育成し地域の誇りとされる学校。
○ 生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
○ 激動する社会で活躍できる学力や社会人として必要な礼儀等を身につける学校
○ 互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
○ 将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献・社会的自立のできる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上
(1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。
ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。
イ 基礎学力調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒 1 人 1 台端末の活用。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :42.1% R3 :61.2% R4 :81.2%→R7 :85%超)
(2) 教員の授業力の向上
ア 授業力向上プロジェクトチーム（JKP）を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。
イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部者への授業公開。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :45.2% R3 :55.6% R4 :60.2%→R7 :75%超)
(3) 大塚プレミアム（1・2 年補習・講習）・大塚プレミアム＋（3 年進路向け講習・講習）の組織的な実施。
ア 各教科・進路指導部・教務部が連携した、講習・補習の実施。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目を追加し肯定的回答率を向上させる。(新規:→R7 :50%超)
(4) オンライン学習の校内体制の構築
ア 教員 1 人 1 台端末を活用した授業に向けた教員研修・学習会の実施、好事例の共有。
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :57.1% R3 :88.9% R4 :90.9%→R7 :100%)
2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす
(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
ア 職業調べや探究活動を通して、将来の進路や生き方について考える力を育成する。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :79.4% R3 :85.6% R4 :89.1%→R7 :90%超)
(2) チーム大塚による生徒支援体制の確立。
ア 高大接続プロジェクトチーム（KSP）を活用し、教育産業と連携して生徒学力の分析会を実施する。統合 ICT を活用した情報の共有化。
イ KSP による進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
* 4 年制大学進学率の向上 (R2 :55.9% R3 :58.4% R4 :57.7%→R7 :60%超) * 就職内定率の 100%維持 ((R2 :100% R3 :100% R4 :100%→R7 :100%維持)
ウ SC、SSW 等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実。外部機関とのスムーズな連携体制の確立。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :54.8% R3 :54.5% R4 :66.7%→R7 :80%超)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる
(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成。
ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。
* 部活動加入率 80%超を維持しながら学力の向上をめざす。生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(新規→R7 :60%超維持)
イ 生徒会自治会活動の活性化により「自主的な学校行事」のさらなる促進。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :67.1% R3 :73.4% R4 :79.5%→R7 :90%超)
ウ 松原市や松原警察署、消防署と連携した、安全指導・清掃活動・ボランティア活動の推進。1 部活動 1 ボランティア運動を実施。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :44.4% R3 :47.8% R4 :56.0%→R7 :70%超維持)
(2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
ア 人権教育推進委員会による、教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :72.0% R3 :92.5% R4 :95.0%→R7 :95%超維持)
イ 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
* 遅刻総数を前年度比 5 % ずつ減少させる。(R2 :479 件 R3 :513 回 R4 :357 回→R7 :400 件以下維持)
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :81.6% R3 :91.6% R4 :94.1%→R7 :95%超)
ウ 多様性を育み、論理的にもの考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R2 :72.2% R3 :86.1% R4 :89.9%→R7 :90%超)
4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進
(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。
ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
(2) オリンピック等の国際大会出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
ア スポーツ講演会の開催
イ スーパーインストラクター招聘事業
(3) 地域におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。
(4) 首席、ミドルリーダーが中心となり、出前授業、学校説明会、中学校訪問など広報活動を推進する。 * 学校説明会延べ参加者数 (R4 :936 名→R7 :1000 名超)
5 チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立
(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。
* 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年 5 % ずつ引き上げる。(R2 :46.9% R3 :60.7% R4 :51.5%→R7 :70%超)
(2) 質の向上・平準化による業務の効率化。
* 教職員の時間外勤務時間の平均を前年度より減少させ、時間外勤務時間月 80 時間以上の職員を延べ人数を減少させる。
(R4 :49.44H → R7 :45H 未満、R4 :延べ 100 人→R7 :延べ 52 人以下)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 （生徒）「授業について、教え方は工夫されている」肯定率 81.8%（昨年度 66.1%・一昨年 61.3%）（以下肯定率(昨年度・一昨年度)） 「授業はわかりやすく楽しい」75.5% (60.2%・55.6%) 「コンピュータや視聴覚機材などを使って発表する機会がある」89.6%（81.2%・61.2%） 「朝学や補習・講習は役立っている。」72.0% （教員）「生徒の到達度に合わせて、学習指導の方法や内容について工夫している」86.1%（72.7%・82.1%） 「コンピュータ等の ICT 機器を教科の授業などで活用している」97.2%（90.9%・88.9%） 「参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」83.3%（75.8%・71.4%） 今年度は「授業力向上 PT」が中心となり初任者、10 年経験者を中心に授業力向上を進め、授業見学および研究協議に取り組んできた。その結果、「授業見学の実施、授業見学後の意見交換」という形が定着してきた。また効果として、「ICT 機器を授業に活用している」教員は 97.2% と 90%を大幅に超え、昨年伸びなかった「教え方は工夫されている」は昨年比 15.7%増の 81.8%に大幅に伸び、「授業はわかりやすく楽しい」も昨年比 15.3%増の 75.5%に大きく伸びたと考えられる。これは生徒からのアンケート結果でもそれぞれ 81.8%、75.5%と同じような数値の伸びを示しており、生徒も教員と同じように感じていると思われる。 今回、生徒への追加項目として「朝学や補習・講習は役立っている。」のアンケートを行ったところ、72.0%の肯定率が出た。今後、さらに充実したものとして活用を進めたい。 【生活指導】 （生徒） 「学校生活についての先生の指導は納得できる」79.1%（70.7%・63.9%） （保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」77.5%（70.4%・65.8%） （教員） 「この学校では、生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」91.9%（90.6%・67.9%） 生徒指導への理解について、生徒は、昨年比 8.4%数値が上昇、保護者も昨年比 7.1%数値が上昇している。教員については、「組織的に対応できる体制が整っている」が昨年に続いて 90%を超えており、学校の生徒指導についての理解を得ていると考えられる。今後とも、保護者との連携、理解、協力を得られるよう丁寧な説明と指導を続けていく必要がある。 また、生徒指導と教育相談（カウンセリング等）との連携については、教員は昨年比 14.1%増の 83.8%と高い数値が出ているが、生徒は昨年比 1.5%増の 70%を超える数値であることから、SC・SSW を交えた教育相談・生徒支援を通して心のケアも合わせた生活指導をさらに進めていく必要があると思われる。 【進路指導】 （生徒）「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」90.6%（89.8%・83.0%） 「模擬試験のデータを学習や生活習慣に活かしている。」71.6% （保護者）「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」86.9%（74.8%・72.1%） 「教育情報について提供の努力をしている」84.6%（65.7%・67.3%） （教員） 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」89.2%（81.3%・82.0%） 「模擬試験の結果（データ）を進路指導に活かしている。」83.8% 進路指導についてほとんどの項目で数値は上昇または高止まりをしている。これまで低い数値を示していた保護者の「学校による教育情報の提供努力」も 19.1%増の 84.6%と大幅に増えた。今年度、5月に3年保護者説明会、1・2年保護者進路説明会を開催したこと、「さくら連絡網」によって保護者へ直接配信出来るようになったことの成果が現れた。 また、今年度追加項目の「模擬試験の結果（データ）を進路指導に活かしている。」については生徒も、教員も7割を超える高い肯定率となった。 【学校運営】 （教員）「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」97.3%（87.9%・57.1%） 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」100%（100%・75.0%） 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」89.2%（51.5%・60.7%） 「この学校では、初任者等、経験の少ない教職員を育成する体制がとれている。」83.8%（42.9%・42.9%） 校長のリーダーシップのもと、学校運営が行われていることがいずれの結果からも伺える。引き続き各教員が意欲的に職務に取り組み、その能力を十分に発揮できる職場環境づくりを続けていく必要がある。 また、「初任者等、経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」については、前年比の2倍近い 83.8%と大幅に伸びており、校内での取り組みが評価されていることを示している。	第1回（R5.6.9） ○令和5年度学校経営計画、スクールミッションについて ・大塚高校の生徒はとてもよく頑張っており、校長のリーダーシップのもと教員もしっかり取り組んでいる学校だと思う。 ○学習指導・生徒指導・進路指導について ・合格者の評定平均は伸びたが、学力の幅が広がっている。補習と共に教員の授業力が向上するよう工夫をしてほしい。 ・体育科を志望する生徒は高いモチベーションを持った生徒が大塚高校をめざしてくる。実習、連携も多岐にわたっているので、スポーツに関する知識をさらに深めさせてほしい。 ・生徒指導提要の改定により、従来の禁止する内規から安全指導・事前防止指導に重点を置く必要がある。頭髮や自動二輪免許取得の内規を見直したことはとても評価できる。 ・生徒約8割が自転車通学をしているので、交通安全講習も地域に特化した内容をお願いしたい。 ・進路指導において指定校推薦等で早い時期に進路を決める傾向がある。一般入試まで粘り強く頑張らせたい。 ○美原高校との機能統合について ・中学からの支援を引き継ぎ、多様化する生徒に対応できるようにしてほしい。 第2回（R5.11.20） 審議事項 ○授業見学について ・初任者教員の授業はざわついている。授業を受ける姿勢づくりが大切である。しっかり指導をして欲しい。 ・ベテラン教員の授業は丁寧な言葉を使い教室で生徒を大人として扱っている。生徒にもそれが伝わっていて見本となる授業である。 ・授業を見て丁寧に生徒に話しかけている教員が多いことに事に感心した。 ・グループ研究発表の授業で生徒は発表を聞きながらレポートを書き、それをまとめて考えることができる授業だった。発表後に発表者と聞いている生徒とのやり取りがあればもっとよかった。自ら調べてまとめ、その内容を考えて発表する授業で主体的な学びになる。 ○第1回授業アンケート結果等について ・欠席した生徒への対応については、コロナ禍は課題配信をしていたようだが、今は定期的に課題を配付し、質問対応をしていることが確認できた。 ・授業アンケート結果が 3.35 から 3.39 と昨年度より大きく上昇している。授業見学後の授業見学シートを活用した指導助言が効果を上げている。 ○令和6年度教科書選定結果について ・承認 第3回（R6.2.5） ○令和5年度学校評価及び令和6年度学校経営計画について ・令和5年度学校評価では、生徒、保護者、教職員とも評価の肯定感が上昇している。学校運営に対して評価できる。一方で教職員の負担が増えていないか点検しながらバランスよく進めて欲しい。 ・令和6年度学校経営計画の中の、授業力向上の取組みのところに、「読解力・思考力・表現力」に「判断力」を加えた方が良いのではないか。 ○スクールミッションについて ・スクールミッションはすでに公開させているのでしょうか。 ⇒教育庁より送られてくるスクール・ポリシーと合わせて後日確認をしていただく予定。 ○広報活動について ・ミドルリーダーが中心になって広報活動をされているがどのようにされているのか。 ⇒教員が横のつながりを大切にしながら、責任感をもって動いている。さらに若手の教員を巻き込んで新たなリーダーを育てていきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 学力向上の進捗を確認できるツールの活用	(1) ア・「考査振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。 イ・1人1台端末を活用して生徒自身が学力定着度を確認する。	(1) アイ・生徒向け自己診断「PC等を使って発表する機会がある」の肯定率を前年度より上げる。 [81.2%]	(1) アイ・実力テスト結果や学習習慣・学習時間をポートフォリオを活用して振り返りを行った。1人1台端末を活用した研究発表の授業も増えている。生徒の肯定率は 89.6%と昨年度より上昇した。(◎)
	(2) 教員の授業力の向上	(2) ア・授業アンケートの振り返りシートを授業力向上に活かし、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ・各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ(観点別学習状況の評価)による研究授業の実施。オンデマンドによる授業見学の実施。	(2) ア・生徒向け自己診断「授業について教え方は工夫されている」の肯定率の 70%超。 [66.1%]	(2) ア・授業アンケートの振り返りシートは全教員が提出し、各自が課題改善に取り組んだ。生徒の肯定率は約 15%上昇し 81.8%となった。(◎)
	(3) 大塚プレミアム・プレミアムの組織的な実施	(3) ア・各教科・進路指導部・教務部が連携して、講習・補習を組織的に実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、必要な内容を講習として設定する。	イ・教職員向け自己診断「生徒の実態ふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定率 78%超。 [75.8%]	イ・年2回の授業見学期間を実施。授業力向上PTによる研究授業、研究協議により教職員の肯定率は 83.3%と大きく上昇した。(◎)
	(4) ICT 機器を活用した授業の推進	(4) ア・生徒及び教員1人1台端末を活用した授業実践に向けた研修・学習会の実施や好事例を共有することで教員の授業力を図る。	(3) ア・生徒向け自己診断「理解度に応じて補習や講習が行われている」の肯定率 50%超。 [新規]	(3) ア・大塚プレミアム(朝学・補習・講習)と大塚プレミアム+(進学講習・公務員向け講習・看護医療系講習)を実施した。生徒の肯定率は 72.0%と予想を大きく上回った。(◎)
2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 将来像を描く力の育成	(1) ア・探究活動や職業調べ、卒業生の講話を通して将来の進路や生き方について考える力を育成する。 イ・KSP による教育産業と連携して生徒の学力分析会を実施し、統合 ICT を活用して情報を共有する。	(4) ア・教職員向け自己診断「ICT 機器を教科の授業などで活用している」の肯定率 90%超維持。 [90.9%]	(4) ア・情報委員会と授業力向上PTが連携して研修を実施した。各教科とも ICT 機器を活用した授業が増えている。教職員の肯定率は 97.2%と上昇した。(◎)
	(2) チーム大塚による生徒支援体制の確立	ウ・「Chromebook を活用した進路指導マニュアル」を作成し、研修・学習会を実施し教員の進学指導力の向上を図る (2) ア・SC・SSW 等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実と生徒支援のための各種研修(ヤングケアラー等)の実施。 イ・進路情報などを進路だよりや学年通信、HP 掲載することで、保護者へ発信する。	(1) ア・生徒向け自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%超。 [89.8%] イ・4年制大学への進学率、60%超。 [57.7%] ・就職内定率 100%維持。 [100%]	(1) ア・探究活動や職業調べ、卒業生の講話、分野別説明会を実施した。生徒の肯定率も 90.6%と上昇した。(○) イ・高大接続PTによる分析会と研修を全体会と学年毎に分けて実施した。4年制大学進学率は現時点で 54.8% (△) ・学校あっせん就職の内定率は 100%。2名が公務員の2次選考結果を待っている。(○)
			ウ・教職員向け自己診断「生徒の興味・関心、適正に応じてきめ細かい指導を行っている」の肯定率 80%超維持。 [81.3%]	ウ・実力考査後にタブレットを活用し、学力及び学習習慣・学習時間のデータを学年・クラス・個人の3方向から分析し、指導に活かした。教職員の肯定率は 89.2%と上昇した。(◎)
			(2) ア・生徒向け自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 75%超。 [71.6%]	(2) ア・SC・SSW による研修を実施。教育相談室を開設した。生徒の肯定率は 73.1%と上昇したが、目標に達していない。しかし、支援体制が整い職員の意識が高まった。(○)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1) 協力協働の社会的精神の育成	(1) ア・「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ・「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。	イ・保護者向け自己診断「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定率 70%超。 [65.7%]	イ・進路情報について HP にアップするとともに、今年度から導入した「さくら連絡網」で配信したことで、保護者の肯定率が 84.6%と昨年度より約 20%上昇した。(◎)
	(2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	ウ・松原市や松原警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2) ア・人権教育推進委員会・道徳教育推進教師による「大塚あったかマップ」に従った人権 HR や体験学習を実施する。 イ・「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ウ・行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的物事を考える力、自分の考えを適切に伝えることのできる力の育成に努める。	(1) ア・生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができている」の肯定率 70%超。 [新規]	(1) ア・生徒の肯定率は 42.1%と目標を大きく下回ったが、学年が上がると肯定率も上昇している。時間の使い方の工夫と、学習習慣を身に付けさせるのが今後の課題。(△)
			イ・生徒向け自己診断「大塚祭等学校行事は工夫されている」の肯定率 80%超。 [79.5%]	イ・生徒自治会の活性化により、生徒たちが自主的に学校行事に関わるようになってきた。生徒の肯定率は 90.4%と大きく上昇した。(◎)
			ウ・生徒向け自己診断「授業や部活動を通して地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 60%超。 [56.0%]	ウ・松原警察から特殊詐欺防止鉄壁ディフェンス隊を任命された。松原市の式典で市長とのパネルディスカッションに参加した。生徒の肯定率は 73.5%と大きく上昇した。(◎)
			(2) ア・生徒向け自己診断「ホームルーム等で人権について学ぶ機会がある」の肯定率 95%超維持。 [95.0%]	(2) ア・学年によって HR の活用には差が出てしまい、生徒の肯定率は昨年度より下がり 92.2%となった。(△)
			イ・遅刻総数前年度比 5%減少。 [357 回]	イ・令和 5 年 5 月 8 日の新型コロナウイルスの 5 類以降の影響もあり、今年度は 519 回と増加した。(△)
			・生徒向け自己診断「挨拶や言葉遣い、時間を守るなどの社会性の育成に努めている」の肯定率 90%超維持。 [94.1%]	・朝の登校指導、あいさつ運動、マナー指導の成果があり生徒の肯定率は昨年度より上昇し、95.0%となった。(◎)
			ウ・生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 85%超維持。 [89.9%]	ウ・授業、学校行事、部活動などあらゆる角度から社会のルール等について全教職員がアプローチした。生徒の肯定率は昨年度より上昇し 92.1%となった。(◎)

府立大塚高等学校

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進	(1) スポーツ交流やボランティア活動の推進 (2) 広報活動の促進	(1) ア・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 - イ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚 CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。 (2) ア・リニューアルした HP の効果的な運用を図るため、学年、部活動等ごとにデータ提供を行う担当者を位置付け、中学生等への情報発信に努める。 ・本校で実施する学校説明会（年間 4 回実施）の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。	(1) ア・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 [14 回] ・全国高校総体など全国大会への複数クラブ出場 [陸上競技部] イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目と参加者の増加 [50 名] ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚 CUP」の開催 [200 名超] ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 60% 超。 [56. 0%] (2) ア・学校説明会参加者数の増加。 [936 名] ・志願者数の増加。 [体育科:134 名、普通科:173 名] ・保護者向け自己診断「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定率 70% 超。 [65. 7%] ・学校説明会、オープンスクール合わせて 4 回実施。 ・中学校訪問数 150 校以上 [158 校]	(1) ア・プロトレイルランナー宮崎喜美乃さんを招き、全校生徒対象の「スポーツ講演会」を実施。「スーパーインストラクター招聘事業」などを 16 回実施した。(○) ・今年度は、ソフトテニス部・陸上競技部が全国高校総体に出場し、陸上競技部の 3 名が 8 位入賞を果たした。(◎) イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」に、新たに「かけっこ教室」を加え、地元の 2 校の小学生約 60 名が参加し、運動部員と一緒にスポーツを楽しんだ。(○) ・「大塚 CUP」をはじめ、中学校運動部を招いた大会等に 1500 名を超える中学生が参加した。(◎) ・生徒向け「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率も 73. 5% と昨年度より大きく上昇した。(◎) (2) ア・体育科説明会 372 名、ワンデー大塚 368 名など説明会の参加者数は合計 982 名と増加した。(◎) ・志願者数は体育科 98 名、普通科 131 名と昨年度より減少した。希望調査が進みにつれ減少していったのは私学無償化がかなり影響している。(△) ・HP や今年度から導入した「さくら連絡網」の活用により、保護者向け情報提供の肯定率は約 20% 上昇し 84. 6% となった。(◎) ・体育科説明会、ワンデー大塚、第 1・2 回学校説明会と合計 4 回実施した。(○) ・本校に在籍している生徒の出身中学校や本校に進学の可能性のある中学校、169 校へ訪問し広報活動を行った。(○)
5 チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立	(1) 全員で取り組む雰囲気醸成 (2) 業務の効率化	(1) ア・グループワークによる自主的な研修や学習会を計画する。教科・分掌の枠を超えたミーティングを定期的に実施する。 (2) ア・「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	(1) ア・教職員向け自己診断「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率 60% 超。 [51. 5%] (2) ア・教職員の時間外勤務時間の月平均を前年度より減少させる。 [49. 44H] ・時間外勤務月 80 時間以上の教職員を前年度より半減させる。[延べ 100 人]	(1) ア・学校掲示板の活用による迅速な情報共有と PT による定期的なミーティングなどによって、教職員の疎外感が減少し、協力協働の意識が生まれ、教職員の肯定率は 89. 2% と約 40% 上昇した。(◎) (2) ア・時間外勤務時間の月平均は 53. 017H と昨年より増加している。部活動関係で公式戦会場校業務や高体連関連業務を担当する教員の時間外勤務時間の減少は本校だけでは不可能である。(△) ・80 時間以上の教職員は延べ 116 人と増加した。しかし、業務を分担することで、100 時間以上の教職員は延べ 2 人減少した。(○)